

平成26年度 学校教育目標設定報告書

学校番号 100

学校名 県立長生高等学校

課程名 全日制

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組, 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)
学 校 経 営	1 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生徒の個性や能力を伸ばすとともに希望する進路実現のための指導・支援の充実に努める。 2 言語活動を充実させ、コミュニケーション能力や論理的思考力を育成し、将来、国際社会で活躍できる人材の育成に努める。 3 家庭・地域との連携を密にし、開かれた学校づくりを推進するとともに、安全教育の一層の充実に努める。	①生徒や地域の要望を踏まえ、充実した教育課程の編成を行い、学習と部活動の両立を可能にする教育環境をつくる。 ②豊富で新鮮な資料を揃え、図書館便り、新着図書案内、リクエスト制度等の広報活動を行う。 ③留学生の受け入れや短期交換留学生の受け入れを行い、国際交流のできる環境をつくる。 ④ Web ページを通して、積極的な情報発信に努める。 ⑤保健室の利用状況を職員に連絡し、共通理解を図る。 ⑥交通安全指導(交通安全・災害安全)及びマナー指導を充実させる。 ⑦緊急時(地震・火災)の生徒の安全意識の向上を図る。環境整備の励行による学習環境の高レベルでの維持を図る。	①2学期制、単位制のメリットを活かした教育課程の編成と実施。 ②部活動の加入率と大会結果、活動概要報告。 ③年8回の図書館便りを発行する。年2回の図書館利用状況を職員へ報告。リクエスト制度の実施。 ④留学生や短期交換留学生の円滑な受け入れ。国際交流の情報提供。 ⑤ Web ページには努めて新しい情報を掲載できるようにする。生徒参加・海外向けのページの充実。 ⑥保健室通信による報告を月1回(年10回)実施。 ⑦交通安全指導年6日間、列車巡回指導年4日間、定期考査中の駅周辺等の巡回5日間実施。 ⑧防災避難訓練(地震・火災対応)を年2回実施。 ⑨危機管理マニュアルの見直し、備蓄品の整備及び防災訓練の見直し。
学 習 活 動	1 質の高い授業を通して、主体的・探求的に学ぶ態度を育成し、知識、技能に加えて、思考力、判断力、表現力等を高める授業実践に努める。 2 進学指導重点校並びにSSH研究開発校として、教育課程の充実を図り、生徒の学力の一層の向上を目指す。 3 進学指導重点校として、組織的・計画的な進学指導や課外授業の充実に努め、生徒の希望する進路実現を目指す。	①生徒による授業評価アンケートの実施する。(6月、11月) ②生徒のニーズに合った学校設定科目の作成。 ③全教科で、授業公開や研修会を実施して、指導力の向上を図る。 ④各関係教科で、学習の中に問題解決に必要な仮説一検証のプロセスを導入する。 ⑤模試成績の分析を通じて、生徒の学力推移を定点観測し、現状に応じた指導を展開する。 ⑥生徒のニーズに合った課外授業を年間を通して各学年で実施する。 ⑦生徒の進路希望に応じた指導・支援をするため、進学資料等を準備する。	①生徒の授業評価アンケートの結果に基づき、校長との面談2回実施。 ②生徒の授業評価アンケートの結果。 ③校内研究授業3回以上、研修会実施。 ④グループワークや対話形式を取り入れた授業の達成率、生徒の発言の機会の増加率。 ⑤全員受験の模試と学習状況診断型テストの実施。その結果の共有化。(1年生5回、2年生6回、3年生4回) ⑥課外授業の実施内容・時間数及び生徒のアンケートにより確認 ⑦進学に必要な資料等を生徒に逐次周知。
生 徒 指 導	1 HR や学校行事、部活動等の一層の充実に努め、生徒の自主的、自律的精神の涵養に努める。	①登校指導、下校指導を通して、挨拶の励行、服装・頭髪等のマナーを徹底する。 ②自発的な基本的生活習慣の確立を目指し、保健便りの発行などによる保健指導や健康教育を実施する。	①学校評価アンケートの肯定意見の割合を維持する。遅刻者の延べ人数を前年度比較10%減少。 ②保健便りを月1回(年12回)発行。

生徒指導	2 生徒理解を基盤とした生徒指導の充実に努め、自他の生命や個性を尊重し、他者と協調して問題を解決することができる力を育成する。 3 保健指導や教育相談、特別に支援が必要な生徒へのきめ細かい指導・支援の充実に図り、心身ともに健康で元氣な生徒の育成を目指す。	③全校一斉LHRの内容を充実させ、豊かな心を育成する。 ④1年次のLHRにおいて、道德に関するDVDの視聴や読み物教材を活用し、感想等を発表する。 ⑤図書館報の発行や各読書感想文コンクール等に主体的に取り組ませ、豊かな心を育成させる。 ⑥SCの組織的な活用や事例検討会開催などの教育相談体制を整備する。 ⑦特別支援教育や教育相談に関する理解を更に深める目的で職員研修を行う。また、個に応じたニーズに応えるための支援体制を整備し、個別支援を行う。	③全校一斉LHRを3回実施。その際、生徒からのアンケート実施。 ④レポート、アンケートの結果周知。 ⑤図書館報の発行(12月)や各種感想文コンクールの取組。 ⑥SCの活用状況の報告を年3回実施。 ⑦生徒情報交換会を月1回開催する。職員研修会を年2回(11月・12月)実施。特別支援教育推進委員会を年3回実施。
キャリア教育	1 教育活動全体を通じてキャリア教育を推進し、将来の目標を明確に持ち、その達成のために計画的に行動できる力を育成する。 2 各教科等の学習を基盤とした体験活動やボランティア活動の充実に図り、社会との関わりを深める中で、自ら課題を見つけ、課題を解決していく力を育成する。 3 個に応じたガイダンスの機能を生かして、進路指導の一層の充実に図る。	①定期的な進路希望調査や学習状況の定点観測を通じて、生徒の進路希望状況を把握し、その現状や発達段階に応じた進路指導を広報活動や面談を通じて継続的に実施する。 ②インターンシップや体験活動を奨励し、勤労観や職業意識の醸成を図る。 ③卒業生や地域の人材を講師とした進路説明会や本校OBによる天夢塾を実施する。 ④地域の大学と高大連携を実施する。	①詳細な進路希望・学習状況調査を各学年3回実施。 ②職場体験、ボランティア活動実施回数、状況の把握。 ③進路説明会や天夢塾の実施回数とその状況を把握。(各学年前・後期各1回) ④高大連携講座の参加人数把握、大学講師を招いての特別授業年3回実施。
特色ある教育活動	1 SSH事業の研究実践を生かして、理数教育の一層の充実に図るとともに教育活動全体の活性化を図る。 2 将来、国際社会で活躍できる人材を育成するために、英語によるプレゼンテーション能力の育成を図るとともに国際交流活動を推進する。 3 小学校、中学校、高校、大学や地域企業等と連携し、教育活動の一層の充実に図る。	①研究発表会等対外行事に積極的に参加するとともに、生徒の新たな活動を場を開拓する。 ②英語による発表や意見交換の場を増やし、コミュニケーション能力の伸長をはかる。 ③ICTを活用した国際交流事業を推進する。 ④高大連携事業を通じて、生徒の進学へのモチベーションを上げるとともに、よりよい進路選択に役立たせる。 ⑤大学、企業等との協働で学習プログラムを開発する。 ⑥「出前授業」や「おもしろ理科講座」を充実させ、SSH事業の成果を近隣小中学校へ還元する。	①発表会等の参加人数、発表形式。 ②実施回数、生徒のパフォーマンス評価。 ③国際交流の実施状況、実施回数の把握。 ④大学との連携講座回数と参加人数を把握。(3回) ⑤旧プログラムとの比較評価。参加者の満足度調査。 ⑥実施回数、小・中学校教員の満足度調査、出前授業等の質的な掌握。